保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人むつみ会
施設名	むつみ北保育園
報告者（役職）	酒井　昌子（園長）
住所・連絡先	愛知県岡崎市土井町字柳ヶ坪８番地
	☎　0564-52-2667 E-mail　mutsumikt@outlook.jp

○タイトル（保育計画）

「よいとこさ岡崎」和太鼓でつながろう、みんなのこころ、みんなのえがお

○主な助成備品

平太鼓一式（台座・バチ付 14 セット）、長銅太鼓一式（1 尺 3 寸・やぐら台 1 セット）

１．保育計画策定の目的

コロナの渦の中で過ごしてきた三年半は社会も保育も変えなければならなかった。人間が自然の脅威を忘れていたことへの厳しい警告！人間は自然を好きなようにできないことを思い知らされ、自然と共存するしかないことを、教えてくれた出来事。保育現場は、いつも当たり前にやっていたことが、何もできなかった悔しさと共に、人とのコミュニケーションはマスク越しで、目の表情しか見えない。黙食はあたりまえ、歌も楽しめない。遊んで触った物は何処もアルコール消毒。保護者参加の行事や地域との交流も中止となり、笑顔で笑うことも少なくなっていった。この三年半の子ども達は、マスク越しの保育士の顔ばかりで、本当の笑顔を十分見ることなく卒園していった。

そして、わが保育園は令和 5 年岡崎市の民営化政策に伴い、三年間で完全民間移管となり、移行期の一年目が始まった。市の職員と新しい職員とのチームワークや絆、外国籍の子や障がいを抱えている子、補聴器をつけても殆ど聞こえない難聴の子等、多様化する保育現場の現状を捉えている。社会も保育園も平常に戻りつつあるが、地域との行事も中止となり、繋がりも希薄になってきたことを感じる。

そこで、保育に和太鼓を取り入れることで、日本の伝統文化の伝承の推進と外国籍の子や障害を抱えている園児も、自分の叩いたバチから感じる鼓動と触れ合うことで自分に鼓動を返してくれる和太鼓と共感しあうことを目的にした。何度も叩いては自然に笑顔があふれ、こころが躍る体験を感じとってほしいと考えた。又、和太鼓を通して園児保護者、職員もコロナ前のような地域交流（地域包括センターの高齢者・子ども発達支援センターや放課後デイの子ども達）をすることで、体験が豊かになると考える。

２．具体的な実施内容

【日本の伝統文化の伝承】

①職員

・「よいとこさ岡崎」の曲に合わせて、和太鼓を打ってみる。

・園児に披露する。

②５歳児

・「よいとこさ岡崎」の曲に合わせて、運動会でバチ打ちを楽しむ。

・運動会では太鼓のリズムに合わせて、心地よく入退場する。

・自らバチを握り、和太鼓の響きを感じる。

・太鼓から返ってくる鼓動を感じる。

・「よいとこさ岡崎」の曲に合わせる心地よさを知る。

③４歳児、３歳児、乳児

・５歳児の和太鼓「よいとこさ岡崎」の曲と太鼓演奏を観て楽しむ。

・太鼓から返ってくる鼓動を感じる。

・自らバチを握り、和太鼓の響きを感じる。

④外国籍の子や障がいを抱えている子等

・触れ合う場を設ける。

・自分の叩いたバチから鼓動を感じる。

・自然に笑顔があふれ、心が躍る体験をする。

⑤地域交流（地域福祉包括センターの高齢者・子ども発達センター）

・園児との交流の場を設ける。

・和太鼓を通して触れ合いを持ち、豊かな体験となるようにする。

⑥保護者

・和太鼓演奏の発表

・保護者と共に「よいとこさ岡崎」の曲を感じたり、発表を笑顔で楽しく観る。

【職員】

・職員が「よいとこさ岡崎」の曲に合わせて和太鼓を打って心地よさを知る。

≪園児に披露≫

【５歳児】

・運動会で「よいとこさ岡崎」の曲に合わせて、バチ打ちを楽しむ。

・自らバチを握り、和太鼓の響きや太鼓から返ってくる鼓動を感じる。

・「よいとこさ岡崎」の曲に合わせる心地よさを知る。

お腹まで響いてくる

“ギュッ”と握っていないとバチがとんじゃう

９月・初めての発表“ドキドキ”

【４歳児、３歳児、乳児 】

・５歳児の和太鼓「よいとこさ岡崎」の曲と太鼓演奏を観て楽しむ。

・太鼓から返ってくる鼓動を感じる。

・自らバチを握り、和太鼓の響きを感じる。

≪３歳児≫

手が“ビリッ”ってなるよ

≪４歳児≫

お兄さんお姉さん
みたいだ！
“カッコイイ”

【外国籍の子や障がいを抱えている子】

・触れ合う場を設ける。

・自分の叩いたバチから鼓動を感じる。

・自然に笑顔があふれ、心が躍る体験をする。

ポンと叩いてニッコリ笑顔
手のひらから伝わる鼓動を
感じながら夢中

≪太鼓に触れ合う乳児≫

子ども達がいつでも太鼓に触れ合えるように、太鼓をホールに出してある。バチの持てない乳児も手でポンポン叩いて音を楽しむことができる。

≪２歳児≫

≪０・１歳児≫

ポンポン音がするよ

【地域交流　（地域福祉包括センターの高齢者・子ども発達センター・中学生)】

・園児との交流の場を設ける。

・和太鼓を通して触れ合いを持ち、豊かな体験となるようにする。

おじいちゃんおばあちゃんが「上手だね」って、褒めてくれたよ！嬉しいなぁ。

３．その成果と評価

・「よいとこさ岡崎」の曲を取り入れたことで、岡崎の魅力と共に日本の伝統文化の伝承と推進ができた。園児や職員同士も共通の話題でコミュニケーションがとれた。

・保護者や地域の方々も関心をもってくださる等、和太鼓の魅力が伝わった。

・和太鼓を叩くことで、姿勢が整っていないと良い音が響かない。握る力もないと、バチがとぶことを経験した。繰り返しの中で握力、腹筋背筋等の筋力をつけ、体幹を鍛えることにも繋がった。

・みんなと掛け声を合わせたりする中で、リズム感も育ってきた。又、日々繰り返すことで、協調性を養い一体感がでてきたように思う。

・４歳児は憧れの５歳児のようになりたいと、真剣な眼差しをむけて、太鼓の打ち方を教えてもらっていた。

・３歳児や乳児も自分の叩きかたで、音の響きが違うことを感じていると思われる。

４．今後の課題と展望

・地域交流（地域福祉包括センターの高齢者）も、この交流を楽しみにしていて、自分達も園児に発表して、交流を深めたいと申し出があり、２月末に交流を進めていくことになった。又、高齢者の方も和太鼓を叩く等、双方の思いや活動が心の育ちになるように、この繋がりを大切にしていきたいと思う。

・保護者の方にも観ていただこうと「卒園発表会」とし、披露する場を急遽設けた。これからは、年間計画に入れていくようにしたい。

・放課後デイとの交流は平日に計画できず、夏休みに取り入れていくようにしたい。